

2014年8月6日

株式会社博報堂DYメディアパートナーズ

株式会社博報堂

NEWS RELEASE

コンテンツビジネスラボ「リーチカ・支出喚起力ランキング」

リーチカ・支出喚起力では、スポーツ・ドラマ・レジャーが上位に。

また、支出喚起力では、音楽コンテンツが軒並み上昇し、アイドルが躍進！

～「コンテンツファン消費行動調査 2014」より～

株式会社博報堂(本社:東京都港区、社長:戸田裕一)と株式会社博報堂DYメディアパートナーズ(本社:東京都港区、社長:大森壽郎)の共同研究プロジェクト「コンテンツビジネスラボ」(※1)は、毎年実施している全国調査「コンテンツファン消費行動調査」(※2)の2014年度版を実施し、そのデータをもとに全11カテゴリ・計714のコンテンツに関する、「リーチカ・支出喚起力ランキング」を算出いたしました。

※「リーチカ」と「支出喚起力」は、企業のコンテンツ活用を促進するために、コンテンツビジネスラボが開発した独自指標(※3)

■ リーチカ・支出喚起力ランキングの概要 ■

全体の「リーチカ」「支出喚起力」では、スポーツやドラマ、レジャー分野におけるコンテンツが昨年に引き続き上位を占めていました。

一方で、個別の作品名の動きを把握するために、カテゴリとして大きな単位のスポーツやドラマ・バラエティ、レジャーの3つの分野をのぞいてランキングを算出(右表)してみると、「リーチカ」では「ONE PIECE」が2年連続のトップに。昨年度の大ヒット映画「永遠の0」「風立ちぬ」といったコンテンツの登場や、アニメ「進撃の巨人」の急上昇なども見受けられました。「支出喚起力」では、アイドルグループ「嵐」が昨年から倍増しトップに。その他にも、音楽コンテンツが軒並み上昇し、アイドルの躍進が見られました。

| リーチカ | | 支出喚起力 | |
|---------|------------|----------------|--------------------------|
| 1位 | ONE PIECE | 1032万人 (+1万人) | 嵐 453億円 (+224億円) |
| 2位 | AKB48 | 903万人 (+52万人) | 東方神起 428億円 (+316億円) |
| 3位 | 名探偵コナン | 901万人 (+155万人) | AKB48 215億円 (+86億円) |
| NEW 4位 | 永遠の0 | 794万人 | EXILE 168億円 (+28億円) |
| 5位 | いきものがかり | 764万人 (-64万人) | ONE PIECE 165億円 (-124億円) |
| 6位 | ゆず | 762万人 (+166万人) | 関ジャニ∞ 162億円 (+38億円) |
| 7位 | 進撃の巨人 | 760万人 (+633万人) | B'z 151億円 (+19億円) |
| 8位 | 嵐 | 735万人 (+32万人) | 進撃の巨人 147億円 (+145億円) |
| 9位 | サザンオールスターズ | 693万人 (+204万人) | 機動戦士ガンダム 125億円 (+40億円) |
| NEW 10位 | 風立ちぬ | 616万人 | ポケットモンスター 106億円 (-29億円) |

(リーチカと支出喚起力とは?)

リーチカ: そのコンテンツが一年間に到達できる人数を表す指標。コンテンツの力を活かして、幅広い生活者に自社商品やサービスを知らせる際に参照する。この指標が高いと、キャラクタータイアップ、CMへの起用、PRなどの活用に向いている。

支出喚起力: コアファンによる、年間の関連市場規模の指標。自社の商品やサービスそのものにコンテンツを組み込んだオリジナルの企画を開発し、コンテンツファンの実際の購買を目的とする際に、どのくらいの売上規模が見込めるかを推計したもの。

■ 本件に関するお問い合わせ ■

株式会社博報堂DYメディアパートナーズ 広報室 山崎・桐明 TEL : 03-6441-9347
 株式会社博報堂 広報室 藤井 TEL : 03-6441-6161

=参考=

■ コンテンツビジネスラボ（※1） ■

独自調査『コンテンツファン消費行動調査』の知見をもとに、近年企業のニーズが高まっているコンテンツを起点とした広告やビジネス設計の支援を行う専門チームです。独自に提唱する『コンテンツファン発火モデル』を用いて、企業やコンテンツホルダーが実施するコンテンツを起点とした広告コミュニケーションの設計支援や、新規事業・サービス展開のマーケティング支援等を行っています。

博報堂のマーケティングプランナーと研究開発職員、博報堂DYメディアパートナーズのコンテンツビジネス開発の専門家などで構成されるメンバーは、スポーツ、ドラマ、アニメ、ゲーム、音楽など、さまざまなカテゴリーの熱心なファンでもあり、コンテンツに対する豊富な知見と情熱を有しています。

■ コンテンツファン消費行動調査（※2） ■

コンテンツビジネスラボが独自に実施する生活者調査。全国の15～69歳男女・計5000名を対象に、エンタテインメントやスポーツなど計11カテゴリーのコンテンツに対する消費行動の実態を把握したもので、業界団体別の出荷・売上データなど既存のコンテンツ関連調査では把握できなかった、生活者のコンテンツ消費実態に本格的に迫った調査として、2011年の発表以来、幅広い業種の企業やコンテンツホルダーにご活用頂いています。

- ・調査方法 : インターネット調査
- ・調査地区/対象者 : 全国 15～69歳の男女（全国7エリアを性年代別人口構成比で割付）
- ・有効回収サンプル数 : 5000サンプル
- ・調査時期 : 2014年2月8日(土)～11日(火・祝)
- ・全11カテゴリ「バラエティ・ドラマ」「アニメ・特撮」「マンガ・ライトノベル」「小説」「映画」「音楽」「ゲーム」「美術展・博覧会」「スポーツ」「特定のタレント・人物」「レジャー施設・イベント」

※2014年度から個別のテレビ番組についても聴取

(調査の特徴)

- ・コンテンツファン行動を、「興味」「利用」「ファン」「支出」の4行動に分類し把握
- ・「誰が」「何に」「いくら」支出しているかを分析したリアルなデータ
- ・全国7エリアを、性年代別人口構成比で割付した調査設計により、市場規模の推計が可能
- ・既存の各業界団体別の出荷/売上データからは把握できなかった支出項目も捕捉
- ・シングルソースデータのためコンテンツのジャンルをまたいだファン行動の分析が明らかに
- ・どんな機器やサービスを使っているか等のコンテンツ利用環境とのクロスデータも算出可能
- ・コンテンツファン行動だけでなく、意識・価値観、コンテンツ以外の財・サービス購入・関心も聴取

■ コンテンツプロファイリングシート ■

ファンの詳細な性年代属性・ライフステージや、人数のボリュームなどの情報をまとめたプロファイルシート。最近1年間に購入した耐久財やサービス、保有デバイス・利用しているネットサービス・よく利用するメディア、週1回以上訪れる店舗など、ファンのコンテンツ利用以外の行動について、組み合わせた分析が可能です。「リーチ力・支出喚起力ランキング」とあわせて活用することで、コンテンツのポテンシャルと、その具体的な活用方法が明らかになります。

コンテンツビジネスラボでは、本サービスによって、コンテンツ・そのファン・企業活動の3者を効果的に結び付け、コンテンツビジネス活性化に向けての支援をしております。また、これらの他にも、コンテンツホルダーの皆様向けに、コンテンツカテゴリごとのトレンドを分析したレポートの販売、追加分析サービスや勉強会なども、昨年よりご提供しております。

■コンテンツビジネスラボの調査データご提供、ビジネス支援に関するご相談について ■

〈無料サンプルレポート提供〉

「コンテンツファン消費行動調査」の無料サンプルレポートをご提供しています。

下記サイトの「資料ダウンロード」欄からお申し込み下さい。

<https://formconsulation.hakuhodo.co.jp/public/application/add/48>

(博報堂のソリューションポータルサイト「コンサラクション」)

〈カテゴリ別レポート提供(有料)〉

クライアント様へ:担当営業にお声掛けいただければ、カテゴリ別に分析レポートをご提供いたします。

その他企業様へ:下記サイトからお申し込みいただけます。

<http://contents.wizbiz.org/> (ビジネス情報ポータルサイト「WizBiz」内の専用ページ)

〈追加分析サービス・勉強会〉

調査データを元に、コンテンツのファンの性年代別などの属性、ファンの支出項目や使用デバイス詳細、情報源、またコンテンツタイアップ時の判断の材料となる消費財やサービスとの相性など、詳細かつオリジナルな分析が可能です。

詳しい分析をご希望の企業様には、追加分析や勉強会を行います。担当営業または下記の窓口まで

お問い合わせください。

■ 博報堂 Consulationセミナーのご紹介 ■

テーマ 「コンテンツ・ファンの気持ちに火をつけるマーケティング戦略のヒント～拡大するオタク市場のとらえ方～」

〈開催概要〉

開催日時 : 2014年9月4日(木) 15時30分 (15時 受付開始)

会場 : 博報堂11階セミナールーム(赤坂 Biz タワー内) 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂 Biz タワー

〈受講申込み先:下記ホームページよりお申込みください〉

<https://consulation.hakuhodo.co.jp/seminar/>

(参加費無料。申込者多数の場合抽選とさせていただきます。)

■ コンテンツビジネスラボ担当窓口 ■

博報堂 研究開発局 木下(03-6441-9063)、佐藤・天野(03-6441-6483)、肥塚(03-6441-6486)

博報堂DYメディアパートナーズ メディア環境研究所 加藤 (03-6441-9713)